日蓮大聖人御書全集

妙心尼御前御返事（病之良薬の事）

みょうしんあまごぜんごへんじ

びょうしろうやく　こと

新版
1962
〜
1964

妙心尼御前御返事（病之良薬の事）

建治元年（'75）8月16日　54歳　窪尼

あわしがき二籠・なすび一こ、給び候い了わんぬ。淡柿二籠・茄子一籠給び候い了わんぬ。

入道殿の御所労のこと。唐土に黄帝・扁鵲と申せし医くすしあり。天竺に持水・耆婆と申せしくすし医あり。これらは、その世のたから、末代のくすしの師なり。仏と申せし人は、これにはにるべくもなきいみじきくすし医なり。この仏、不死の薬をとかせ給えり。今の妙法蓮華経の五字これなり。しかも、この五字をば「閻浮提の人の病の良薬

説

なり」とこそとかれて候え。入道殿は、閻浮提の内、日本国の人なり。しかも身に病をうけられて候。「病の良薬なり」の経文顕然なり。

その上、蓮華経は第一の薬なり。はるり王と申せし悪王、仏のしたしき女人五百余人を殺して候いしに、仏、阿難を雪山につかわして、青蓮華をとりよせて身にふれさせ給いしかばよみがえりて、七日ありて忉利天に生まれにき。蓮華と申す華は、かかるいみじき徳ある華にて候えば、仏、妙法にたとえ給えり。

譬

また、人の死ぬることはやまいにはよらず。当時のゆき・つしまのものども、病なけれども、みながらむこ人に一時にうちころされぬ。病あれば死ぬべしということ不定なり。

また、このやまいは仏の御はからいか。そのゆえは、浄名経・涅槃経には、病ある人仏になるべきよしとかれて候。病によりて道心はおこり候なり。

また一切の病の中には、五逆罪と一闡提と謗法をこそ、おもき病とは仏はいたさせ給え。今の日本国の人は、一人

対馬者　病　壱岐　皆　蒙古びと　病　計　説　成　発　重　到　日本国　人

もなく極大重病あり。いわゆる大謗法の重病なり。今の禅宗・念仏宗・律宗・真言師なり。これらはあまりに病おもきゆえに、我が身にもおぼえず、人もしらぬ病なり。この病のこくするゆえに四海のつわものただいま来りなば、王臣・万民みなしずみなん。これをいきてみ候わんまなこそあだあだしく候え。

入道殿は、今生にはいたく法華経を御信用ありとは見候わねども、過去の宿習のゆえかのもよおしによりて、このなが病にしずみ、日々夜々に道心ひまなし。今生に

造
つくりおかせ給いし小罪は、すでにきえ候いぬらん。謗法
の大悪はまた、法華経に帰しぬるゆえに、きえさせ給うべ
し。ただいまに霊山にまいらせ給いなば、日いでて十方を
見　嬉　疾　死　打
みるがごとくうれしく、「とくしにぬるものかな」と、うち
喜
よろこび給い候わんずらん。
中有の道にいかなることもいできたり候わば、「日蓮が
出　来
弟子　名乗
でしなり」となのらせ給え。わずかの日本国なれども、
相　模　内　者　左　右　畏
さがみ殿のうちのものと申すをば、そうなくおそるること
候。日蓮は日本第一のふとうの法師。ただし、法華経を信

じ候ことは、一閻浮提第一の聖人なり。その名は十方の浄土にきこえぬ。定めて天地もしりぬらん。日蓮が弟子となのらせ給わば、いかなる悪鬼等なりとも、よもしらぬよしは申さじとおぼすべし。さては度々の御心ざし、申すばかりなし。恐々謹言。

八月十六日　　日蓮　花押

妙心尼御前御返事

さるは木をたのむ。魚は水をたのむ。女人はおとこをたのむ。わかれのおしきゆえにかみをそり、そでをすみにそ

めぬ。いかでか十方(じっぽう)の仏(ほとけ)もあわれませ給(たま)わざるべき、哀

法華経(ほけきょう)もすてさせ給(たも)うべきと、たのませ給(たま)え、たのませ給(たま)え。捨